



住民が勝手に
はじめちゃった朝市に
3000人も集まる!?

Medetta's
Now

「かつぬま朝市」の みなぎるパワー



毎月第1日曜日だけ行われる「かつぬま朝市」。
平成15年、地元の有志4人ではじめた小さな朝市が、
今や約200店が出店し、
毎回3000~4000人も集まる巨大マーケットに成長。
とはいっても、新鮮な野菜や魚がスリッと生ぶ朝市ではないし、
今はやりのオシャレなマルシェとも違う、フリマとも違う、
毎日のような、学園祭のような、この独特の空気感とは?

spom/松崎みどり photo/世界



CIHORU

ちはるさんちがっている洋服や
洋服やおもちゃなどをモーティ
にしたデザインカワイイ、ミニ
シルクメッシュなどのオーダー^ー
も可能。帽子やカフスなどに即
し販売しているそう。『かわいい
顔』、『気分がいいですね、
すごく良いです!』

te-te

上記で紹介した、帽子などつくるの道具も丸グラスを握る洋服さんと
お子様の胸元。『お腹は友達のお腹でお店しまし
た。お腹はまだこんなにはいませんでした。お腹、美味しいです。はれてるら
って、買っていたみたいで、めいてるみたいで、ひろさん



雑貨のひろせ

エコ両手瓶で、手づくり
バッブを販売するひろせさん。
自分で作って自分でう
いくなるそう。『お腹は友
達のお腹でお店しまし
た。お腹はまだこんなには
いませんでした。お腹、美
しいです。はれてるらって、
買っていたみたいで、めいて
るみたいで、ひろさん



陽光菴場

今や農業も育てのコシヒカリ手のひら工房
や、ヨーグルト入りでもおいしい「ドライフル
ーフ」なども販売するさん(左)さんと、
スタッフの村松さん。村松さんは
本日初登場。「はじめて来ましたが、大勢の
人が来て嬉しいです」と、ひろせさん

不思議パワー!
農業ボーネズに
お坊さんまで?
朝市は出会いの玉手箱

「これ、野菜? 果物?」試して日々の暮らし
を始めたのが、丸いスマートフォンの食べ
られるおやつなど珍しい野菜。「野菜がつま
らない、ちょうど大変というイメージをえ
たい」と吉田農家が、完熟農業・無農薬野
菜たちの取扱業者や販売・古民家での里山春
らし体験会など、未来にふくらむ夢を開いて
いるだけでは終わらせる。振り出し物
は売り物だけではない、ふだん色合えない人
を振り出せるのも、この朝市の魅力を高めて
いるのだ。

静かな店の店主さん、女性をくすぐるアディ
ブレイで注目の的。イングリッシュガーデン
のガゼボ「家屋」を載せた中は、もちろん時
なんど、お寺のお坊さんまで出店。「お寺う
ても、お寺ができるってほんとうあるはずよ
」お寺の寺を運営のみ寺に十数軒、整体、
カウンセリングをはじめた鈴木さんは、「こ
の『玉手箱』を形



troisième marché

「友達のブースを少し借りて、今日は
初出店なんです」とスタッフの金子さん、大
川さんと、オーナーの高木さん。大
川さんは、青や緑や色、青やカゴバッグまでアン
ティーク風にペイントでき、小笠原さん「ヨウ
コウペイント」を始め、調
味、美しいですね。種類があればまた
販賣したい」と高木さん

Medetta's
Now

稚鶴園e millet

イースペット
ふたりのおさんと共同で新規キリスト
教徒さん。日本にブレンドした国内産の穀物を、
細かい粒のスティックタイプにして販売。赤・黒・黄などの穀物は見た目も
オシャレだし、1本100円という価格も手



マル神農園

「農業ダイヤモンド」を名乗る、山口県の
農業法人組合。大蔵醸造のふるさと神奈川県で
完全無農薬・無肥料でつくった野菜がズラ
り。新しいストーリーや方針から、ダイコン、
ねぎスープ、ニンジンまで驚くほどリースナブル

表されたアドバイザが広がる甲州市朝市
町。7月5日の日曜日、ひどかなアドバイザの刻
風景が実現一度する。今日はお祭り? 夏祭
え? じつはこの入るお祭りはナニ? 2010
年7月からはじまった「さとうのま市」
は、地元ではオツおりをなし、駅から商店
街までシートを張り巡らすなど。会
場を歩いてみると、ふつうの商店にあるよう
な農産物はほとんどない。たこ焼きや焼きそ
ばなどの屋台が多め。

賑やらしいワインの試飲販売がありたり、
手作りしたものの雅賞やアグリモリ。洋
服などおしゃれなアグリモリ。オシャレな花屋さんが
あるとか思えど、農家のお母さんなどが作るこ
とに手を借りていたり、マーケットがある
ば、結婚相談所までの農業の演奏者
も、「なんでもあり」のお祭り感。確かにど
んな店があるんだろ? なんだか、学園祭み
たいでワクワクする。

「これが、ちょっと食えてみたい」眺めるれるが
ままに口に入れたのが、ハチミツをたっぷり
含んだ手の菓。「お客様ならからドライフル
ーフをハチミツで漬けた」という話を聞いて、で
きた商品をこれ。今は東京の青山や代官山
のやまとやさんへ入荷だとお、「おうちねま市」
から誕生したヒット商品が、見附のハピビ
の出店を生んでいるのだが、そんな話ること

Start
「かづぬま朝市」へ
出発!
振り出し物を探しに



第117回 (2018年8月)



第1回

取材を終えて… 「かつぬま朝市」主催者インタビュー

自分たちが楽しめば
人は自然に集まつくる

これだけの規模を誇る朝市なのに、スポンサー企業がいるわけでもない、有名プロデューサーが仕掛けたわけでもない、街おこしで行政ががらんでいるわけでもない。でも、もう10年以上も続いていて、出店者は増えている。最初からこんなに盛り上がりがっていたのだろうか。

「もともと市町村会津をきっかけに、農業と地域住民の交流ができるかと考えて、有志4人で野菜をか販賣始めたのが最初です。ところが、勝沼は果樹農家が多いので、意外と野菜は集まらない。古りやり他の地域の直売所から仕入れたりもしましたが、大変でした。若い物客も少なくて、出店者のほうが多いという時間もありました。売り上げが少ないのに、出店料をいただくのが申し訳なかったですね」と、高安さん。

それがどうして、こんなに人気が出てきたのだろう。何かきっかけがあったのだろうか。「すべての体を駆け足ったんです。結果だけに限定することもないし、勝沼の物や人だけに限定しなくてもいい。徹底を低くしてドタキャンも随日申し込みOKにして、誰でも参加しやすいようにしたんです。気持ちが楽になりました」。

「かつぬま朝市」会長
高安一郎

「かつぬま朝市」では、ワンコインまたは売り上げの10%を支払えば、誰でも出店が可能。出店者との関係をいちばんに考え、手厚く保護する。

「出店者が高安さんに、出店料を支払う場面でにくわした。「今日はどうもありがとうございました」。出店者は口々にお礼をいって、高安さんにお金を払う。不思議な光景だ。

「あえて同業者同士、となりのテントに出店させたりするんです。最初は嫌がっていた出店者が、いつの間にか仲良くなってしまい、コラボ商品が生まれたり。そんなふうにつながっていくんですよ」と、うれしそうな笑顔の高安さん。

現在、出店者の登録数は400にものぼる。残念ながら出店者の新規募集はしていないそうだが、いつが必ず出店してみたいと思った。

Information

【かつぬま朝市】は、毎月第1日曜日開催!
(1月はお休み)
次回は9月7日になります!

Data

info@katsunuma-machimichi.com
⑤甲州街道・勝沼店 0560-3
株式会社シトラーレセベルフォーレワイナリー
勝沼ワイナリー駐車場
⑥9:00~12:00
⑦450円(動物保護基金)
<http://katsunuma-machimichi.com>



移動花屋です。
朝市にスペースがあるときだけ
出店しています

REGULUS

レプソル

「朝の6時半にこだわっています」と店主の石川さん。ガゼボ(実際)を設えた窓を利用して、イングリッシュガーデンのように花の香りを自然な形で楽しむ。花入れから植木までひとりでこなし、個性豊かなアレンジもお得意だとか。



わけえせ

「ここをどちらさま笑顔に…

主催者の「大野山・福地園寺」僧侶であり、達磨施主でもある福木さんが、整体とカウンセリングを行う。ほんの軽いักษさすでいらっしゃったのに、物語に傾いていた体のバランスが整ったみたい。人の体を伝わっていく。向かう声にも耳を傾ける人も詰めらるなどして毎アドバイスも聞ける



シャンモリ ワイナリー & レストラン シャンモリ

御内閣の丸となり。シャンモリ ワイナリーの福地さん(左)とレストランシャンモリの福野さん(右)。ワンコインで勝沼の心かいワインを飲む。もちろん、試飲ができるのもうれしい。購入してくればまだか? 「安く買っていただるついでですね」と福地さん

Now Medettas

不思議パワーの
ミラクル体験までできる?
Miracle

アドバイスを授らしたエニーネー体験ができるのも、この朝市ならでは。ちなみに今日は、専門家によるワインセミナーが開かれたり、太鼓打フルーツマッチングなどが開かれていた。過去には、科学の先生による不思議な実験コニャックもありたとか。さっそく「おもてなし」を体験。森木さんに体のゆがみをアドバイスと指導され、たった数分の施術でなんだか身体が温かくなり、首の痛みもやわらかくなった。バキバキと花栽培でもない。長崎マヨリージョされたわけでもないのに、ちょっと不思議な気つけばもう、終了間際の12時、やっぱり全部は終われない。これは次回も行かなくてはきっと、もう戻った人がまた通う誰かを説いて、人が増えていくのだろう。そして、機会があつたら、自分から出店したり、あれをつくって売るうかな。こんなことをやうないな、新しいことに挑戦したい。夢がどんどん大きくなるでしょ。「かつぬま朝市」の説明されば、「これから自分が儲けない」